



デジタルデザイン研究室

Digital Design Lab.

西應 浩司

NISHIO, Koji / Professor

telecommuting — 住宅勤務の環境作り —

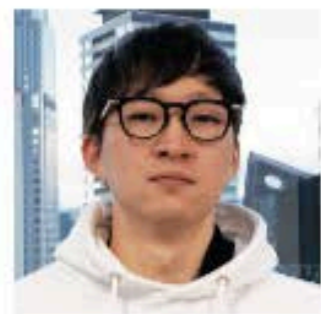
telecommuting : Creating environment for working from home

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、最近ではさまざまな会社が在宅勤務を推奨している。新卒で就職したとして、在宅勤務を強いられたとしても、我が家にはそんなことする場所はない。

そこで、今回の卒業制作では在宅勤務が出来るような空間を我が家に作る計画をする事とした。計画場所は家の横のガレージにある奥の部屋が空いていたのでそこを在宅勤務専用の部屋に改装する。

家の横にあるガレージは築100年ほど経っている長屋の1世帯を半分ぶち抜いてバイク置き場として使っている。いつも地元の仲間を呼んでバイクを見ながらワイワイと酒を飲む空間になっているが、奥の部屋は使っていなかった。

ということで、今回の計画にピッタリだと思う。実際にリフォームするとことまでできればベストだが、近隣住民は高齢者や生まれたての赤ちゃんなど騒音を嫌う層の人間が多く住んでいるため今回は計画のみにする予定である。



近藤 雅也
KONDO, Masaya



新たな繋がりを生むだんじり小屋 ― 打上に活気を取り戻そう ―

Danjiri hut that creates new connections : Let's regain vitality in Uchiage



全国的にだんじりは減少しつつある。

私の地元、打上でも2019年からだんじり祭りが開催されなくなった。その原因として高齢化により維持していく人たちがいなくなったからだ。そもそも子供たちはだんじりを知っているものなのか。そこで私はみんなにだんじりに触れ、知ってもらうために使われなくなっただんじりを新たな形でみんなの身近に展示することにした。

3つのだんじりがあり、ただ1つの場所に展示するのではなく、駅前、公園、神社に展示した。そうすることで様々な年代の人が目にするようになり、だんじりへの興味、関心や地域の活性化に繋がると考えた。

新たな展示をすることでだんじり祭りの復活を私は望む。

田伏 恵美

TABUSHI, Emi



ナギノキ — 新しい交流を生み出す奈良駅高架下のゲストハウス —

Naginoki : Guest house under overpass of Nara station to make possible new communication system

JR奈良駅の高架下に並ぶゲストハウス、ナギノキ

みんながここを訪れることで
芽が出て葉がしげりナギノキはすくすくと育つ。

そしてあなたの大切な日常と素敵な旅をさらに
彩り豊かにしてくれる。

少し遠い場所から足を伸ばしてきた人も
海外からはるばる奈良へ旅行に来た人も
もちろん、この地に住む人も
全ての人がここで出会い、繋がる。

仕事帰りに寄ったカフェ

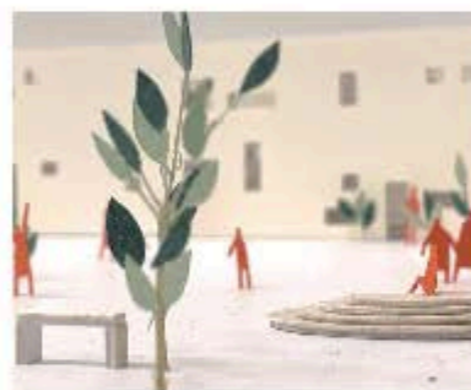
お手頃に泊まろうと予約したゲストハウス
散歩の寄り道で通った高架下

日常にちょっとした輝きと
疲れた体にささやかな癒しを贈ります。

道端で買ったホクホクのたい焼きや
恋人と見に行ったあの綺麗な夜景
みんなに教えてあげませんか？



中村 そよぎ
NAKAMURA, Soyogi



人り混じる町並み — 沖縄恩納村での暮らしの体験 —

Townscape where various housing forms are mixed : Experience of living in Onna village, Okinawa



減りつつある沖縄の赤瓦の建物。
しかし、そのような建物を
同じような木造の建物だけでなく
今と昔の建築様式を混ぜたもので残している。
バス停や公園にあるような東屋にも取り入れられ、
様々なところで見ることができる。

そこで、馴染みのある恩納村にも残せるよう
一棟貸しの宿泊施設として造った。
異なるパターンで複数棟建て、
ターゲットを幅広くした。

リゾート地なので、
マリンスポーツやスキダイビングを
することも可能であるが、
ここでは「暮らしの体験」もテーマであり、
地元民とも交流できるように、
全体が古民家風の赤瓦の建物も
コミュニティースペースとして設けた。

沖縄の伝統芸能を広める場としても使い、
地元民にも必要とされる場所にする。



西村 結衣
NISHIMURA, Yui



石庭 — 残念石の博物館 —

Rock garden : "Zannenishi" museum

私は、小さい頃から何度も小豆島に帰省していた。小豆島の街を散策すると、至る所に人よりも大きな石があった。都会で暮らしていた私にとって、街に巨石が転がっているということが奇妙に感じていた。しかし、大阪城の石垣は小豆島で採石された石で出来ているということを祖父に学んだ時、奇妙に感じていた景色が興味に変わった。小豆島の人たちは大阪に行けず、街中に取り残された巨石を「残念石」と親しみを込めて呼ばれている。

そこで私は、「残念石」をより多くの人に見てもらえるよう、博物館の設計を行った。

現在、残念石の歴史を展示している博物館がある土地に、より「残念石」を見やすいようリニューアルをするという案だ。

「屋内のような屋外」をコンセプトに、壁はあるが屋根はない新しい博物館を提案する。



平井 亮佑

HIRAI, Ryosuke



自在空間 — 部屋の中にある部屋 —

Flexible room : Room in room



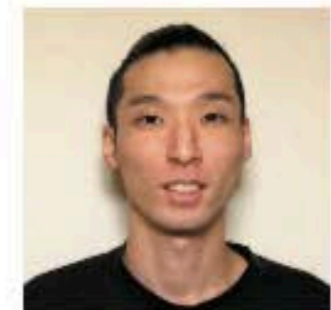
新しいかたちの個室としてこの「自在空間」を提案したい。新型コロナウイルスの流行で私たちの生活は一変し、授業はオンラインで仕事はテレワークと変化した。そして、生活が変化したことで住宅に作業空間を求めようになった。兄弟と相部屋として利用している人や、子供部屋はあるが書斎がない人はこの問題を持ったことと思う。

また別問題として子供部屋の問題がある。子育てが終わり、一定の年齢や就職や結婚で子供は巣立ち、子供部屋は日常的に空き部屋になってしまう問題である。設計当初からこのような仮設型空間の選択肢があれば設計の自由度は広がる。この問題の解決手段のひとつとしてこの「自在空間」を私は設計した。使用するには設置が容易な高さ1600mm、重さ6.6kgの形状に設計し、使用しないときは照明として利用できる。

今後この「自在空間」のような仮設型極小空間が活躍していくと私は考える。

蛭田 章碁

HIRUTA, Shogo



暮らしを彩る商店街 — 地域活性化につながる商店街の再興計画 —

Shopping street that colors our lives : Plan to revitalize shopping street for regional regeneration

かつて住民の生活を支えた商店街。しかし、1980年代以降進む車社会と増加した大型施設の影響を受けてその数は減少し、今となっては閉店した店舗が連なるシャッター街が多くみられる。

赤三商栄街もその一つである。大阪市旭区赤川に位置するその商店街一体は少子高齢化や人口減少により、そこにかつての賑わいはなく、閉ざされたシャッターの奥でひっそりと生活が営まれているようであった。

そこで、街に活気を取り戻すべく商店街の再興計画を考えた。本計画は、商店街を商いの場として再生するだけでなく、そこでの住み良い暮らしの実現により地域全体の活性化につながる商店街の形成を目指すものである。今回はその第一歩として、住民の充実した日常を実現する4つの施設とシャッター街にならない店舗街の提案を行う。

これらをきっかけに新しい住民や買い物客が増えて商店街に活気を取り戻し、これからもこの街が続いてくことを願っている。



藤村 麻未

FUJIMURA, Mami

アメリカからのポーチとガレージ — 地域の交わりとプライベート空間で新たな暮らし —

Porch and garage from US : New lifestyle in neighborhood community and private space



私は洋画や洋楽、アメリカの車、アメリカの街、雰囲気、とにかくアメリカのものが好きである。

アメリカの住宅にはカバードポーチと呼ばれる屋根のついたポーチがあり、テーブルや椅子、ソファなどをおいて家族とお茶を飲んでリラックスしたりガーデニングを楽しむ場所である。ガレージでは趣味の車やバイクを整備して好きなものを飾り、大人の秘密基地のような空間である。

このポーチでかつて日本の縁側でしていた家族やお隣さんとの交わりを取り戻すことができ、ガレージはポーチと対照的なプライベート空間になり、もう一つの部屋のように考えた。

好きなものでポーチとガレージを飾り、お気に入り空間をつくることで家族の個性が表現される。そのような家での暮らしは豊かになるだろう。

松下 颯太

MATSUSHITA, Sota



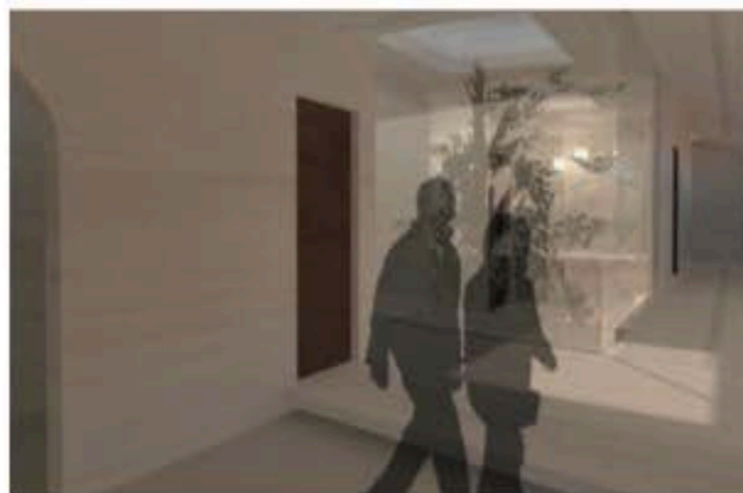
両親への贈り物 —健康に暮らすための住宅—

gifts for parents : Housing for healthy life

歩くことは人が健やかに過ごすために最も大切なことだと、私はこの一年で強く実感した。コロナウイルスの影響で家に居ることが増えたため、体を動かす機会が減った。特に高齢者は身体能力の低下や精神面にも影響する。

そこで、私は両親に少しでも永く健康に暮らしてほしいと考え、「これから高齢者になる人が健康に暮らせる住宅」を提案する。トイレやお風呂などの動作は日常的に行うため、動線を長くすることで必然的に歩行を促す。傾斜5度程度の坂道は平地の2~3倍の運動強度になるため、廊下に傾斜を設け、運動効果を高める。

この住宅を両親に贈ることで両親と過ごす時間が増えたら、と思う。

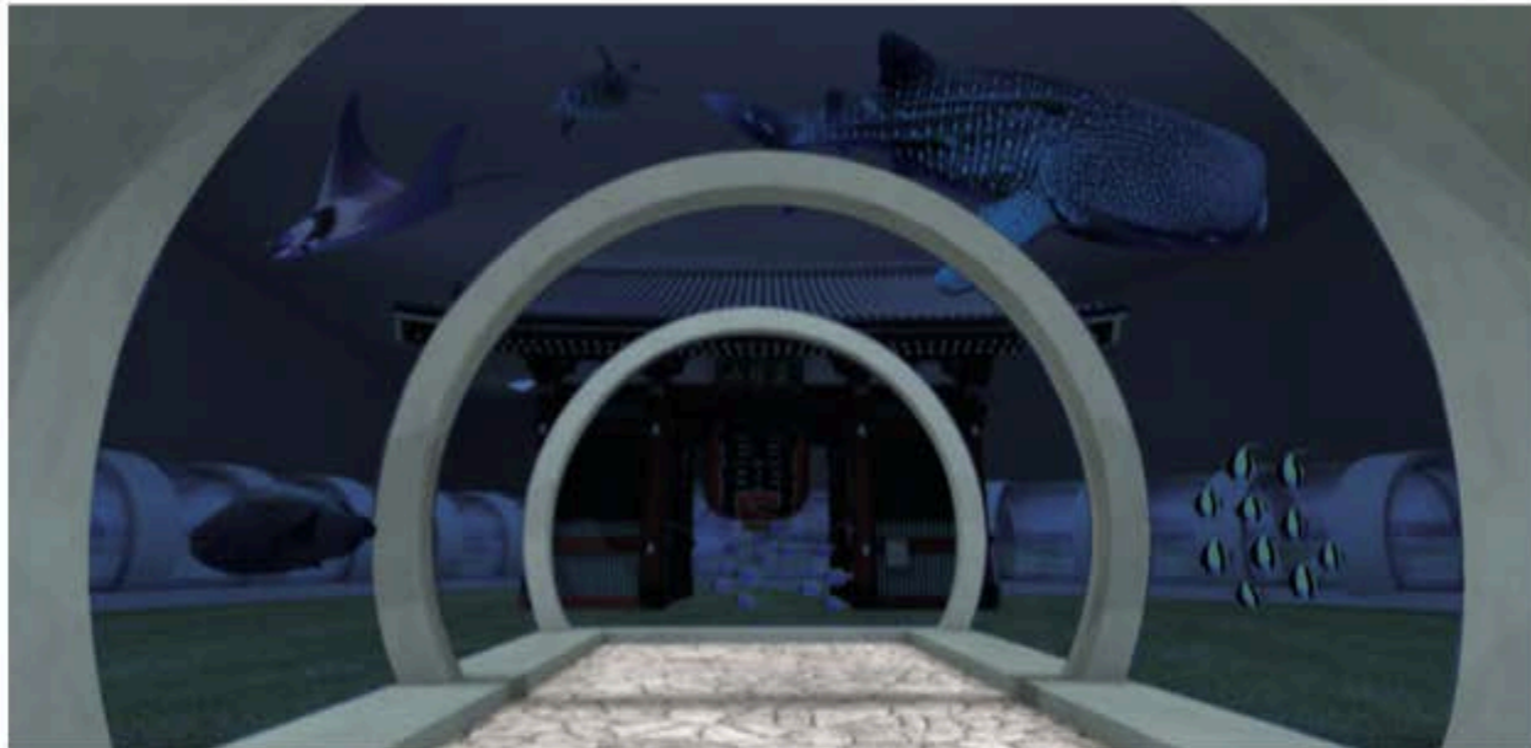


山内 美幸

YAMAUCHI, Miyuki

Dive — 水景を散策する水族館 —

Dive : Aquarium for strolling through waterscapes



日本は“水族館大国”と呼ばれている。世界中の水族館の約2割程度が日本に集中し、国土面積あたりの水族館数が世界で1番多いとも言われている。

敷地は大阪の中之島公園の端にある芝生広場。公園のように見えるが、下に降りるエスカレーターがあり、地下は水族館となっている。

この水族館は水槽の中を歩いて見て周るようにし、水と魚と一体となって観賞することができるつくりだ。海を模した水槽ではなく、日本の建造物を設置し、水没した都市を感じる事ができる。今までの水族館にはなく、異世界のようなとても神秘的な空間となっている。

公園は座れるスペースや寝転べるスペースがあり、自然に囲まれてゆっくりすることができる。地面をくりぬいて窓を設置してあるので、上から水槽を覗くとまた違う見え方がある。

吉野 光輝
YOSHINO, Koki

